

令和5年度 シラバス

(沖縄県立球陽高等学校)

教科名	地理歴史科	科目名	世界史探究Ⅱ	単位	2単位	担当者	小谷 良洋
教科書	『改訂版 詳説世界史B』(山川出版社)			学年クラス	3年5・6・7組		
副教材	『最新世界史図説タペストリ十七訂版』(帝国書院)		新世界史研究ノート応用編(啓隆社)				

1 学習の到達目標及び評価方法等

目標	<p>1. 世界の歴史の大きな枠組みを理解させる。</p> <p>2. 諸資料に基づき、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察させる。</p> <p>3. 歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養わせる。</p> <p>4. 授業の中で得た歴史的思考力、判断力を演習問題等でさらに認識を深める。</p>
評価の観点	<p>【関心・意欲・態度】世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追及するとともに、国際社会に主体的に生き、国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。</p> <p>【思考・判断・表現】世界の歴史から課題を見出し、文化の多様性・複合性や現代世界の特質を多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ、公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。</p> <p>【資料活用の技能】世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。</p> <p>【知識・理解】世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身につけている。</p>
評価方法	<p>①定期考査(年4回)</p> <p>②小テスト(単元末テスト、文化史テスト、世紀別テスト)</p> <p>③課題・提出物(授業プリントや長期休暇時等の課題の提出)</p> <p>④授業への参加姿勢(授業態度・質問・発表・出欠の状況等)</p>

2 学習計画

月	時数	単元名	学習内容	評価の観点				評価	進度
				関	思	技	知		
5	1	授業ガイダンス 世界史探究への扉	・授業ガイダンス(授業の進め方・世界史学習の目標)	◎					小テスト
	1	序説 先史の世界	・人類が自然環境に適応しながら進化し、農耕・牧畜を基礎とする諸文明を築き上げたことに気づくと同時に、人類と言語の分化を理解させる。	◎	◎	○	○		
	2	1章 オリентと地中海世界	・西アジア世界の地理的特質を把握し、オリент文明の盛衰、イラン人の活動を理解させる。 ・地中海一帯の地理的特質を把握し、エーゲ・ギリシア・ヘレニズム各文明の特徴を理解させる。 ・都市国家から大帝国の発展したローマ文明の特質を理解させる。	◎	○	△	◎		
	1	2章 アジア・アメリカの古代文明	・中国文明の起源(殷・周の成立から秦・漢帝国の動向)・インド・東南アジアの地理的特質を把握し、それぞれの文明の成立と発展、独自の宗教・社会制度など、アジア世界の形成過程を理解させる。	○	◎	△	◎		
6	3	3章 内陸アジア世界・東アジア世界の形成	・東アジアにおける北方遊牧民の動向と、三国時代から魏晋南北朝という中国の分裂と動乱の時代を理解させる。 ・内陸アジアの地理的特質を把握し、台頭した遊牧民とその国家の動向を、オアシス民の活動とともに理解させる。 ・隋唐帝国の国家制度や文化、日本を含む東アジア世界諸国の国家体制の整備やその動向を理解させる	○	◎	○	◎	1学期期末テスト	
	4	4章 イスラーム世界の形成と発展	・イスラーム世界成立の背景とその特質、アラブ人による発展とイスラーム帝国の形成を理解させる。 ・インド・東南アジア・アフリカのイスラーム化等、イスラーム世界の拡大の過程を理解させる。 ・イスラーム文明の特質とその影響、学問と文化活動の内容、イスラーム都市を中心としたネットワークの役割を理解させる。	○	◎	○	◎		
7	3	5章 ヨーロッパ世界の形成と発展	・地中海世界解体後、ヨーロッパ世界が東西に分かれ、ゲルマン人移動後の西ヨーロッパでは、外部勢力との大綱の中で封建社会が形成されていったこと理解させる。 ・ビザンツ帝国の繁栄とその社会や文化、スラブ人と周辺諸民族の自立の過程を理解させる。 ・十字軍以降の西ヨーロッパ中世世界の変容と諸国の動向を理解させる。 ・教会と修道院、大学やスコラ学などから、ヨーロッパ中世文化の特色を理解させる。	◎	○	△	◎		
	2	6章 内陸アジア世界・東アジア世界の展開	・古代帝国崩壊後の・西アジア・東アジアといった諸地域世界の新しい国家や社会の形成を確認し、その相互の交流を理解させる。 ・トルコ系民族による国家形成の過程を理解する。	○	◎	○	◎		

8	3	7章 アジア諸地域の繁栄	<ul style="list-style-type: none"> 中華帝国を再現した明朝の動向とともに、朝鮮や日本など東アジア世界の状況を理解させる。 清朝の形成した広大な領域支配とその社会や文化とともに、東アジア世界の動向を理解させる。 トルコ・イラン世界に誕生したイスラーム帝国の動向と、その社会や文化の特質を理解させる。 南アジアに誕生したムガル帝国の動向とインド社会や文化の変化、東南アジア交易の発展を理解させる。 	◎	○	△	◎		
9	3	8章 近世ヨーロッパ世界の形成	<ul style="list-style-type: none"> ヨーロッパ世界の拡大とアメリカ大陸の征服、それに伴うヨーロッパ社会の変革の動きを理解させる。 ルネサンスのもたらした芸術・思想・科学の変革の内容と意義を理解させる。 ドイツから始まった宗教改革の理念とその拡大、カトリック教会の対応を理解させる。 近代国家の原型となった主権国家体制の特色と、体制の形成に向かうヨーロッパ諸国の内乱や戦争の動向を理解させる。 	○	◎	△	◎		小テスト
	2	9章 近世ヨーロッパ世界の展開	<ul style="list-style-type: none"> ヨーロッパ主権国家諸国の動向を重商主義と啓蒙専制主義を柱として理解させる。 ヨーロッパ諸国の植民地争奪と西洋世界の三角貿易のもたらした国際的枠組みを理解させる。 ヨーロッパ文化の特色と、それを生み出した社会状況を理解させる。 	○	◎	△	◎		
10	2	10章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	<ul style="list-style-type: none"> イギリス産業革命の背景と展開、産業資本主義体制の確立とその影響について理解させる。 アメリカ独立革命の経過と独立が近代民主政治に与えた影響を理解させる。 アメリカ独立革命とフランス革命が近代民主政治に与えた影響を理解させる。 	○	◎	△	◎		2学期中間考査
	2	11章 欧米における近代国民国家の発展①	<ul style="list-style-type: none"> ウィーン体制の成立と、その体制下に広がったヨーロッパ諸国の自由主義とナショナリズムの運動を理解させる。 クリミア戦争以後の国際秩序の動揺と再編、イタリア・ドイツにおける国民国家の形成過程、ロシア・オーストリアの皇帝主導の近代化を理解させる。 	◎	○	△	◎		
	1	11章 欧米における近代国民国家の発展②	<ul style="list-style-type: none"> ラテンアメリカの独立、アメリカ合衆国の領土拡張と南北戦争以後の発展を理解させる。 19世紀の欧米文化の特徴とその成立の背景を理解させる。 						
11	3	12章 アジア諸地域の動揺	<ul style="list-style-type: none"> 西アジアにおけるオスマン帝国支配の動揺と改革、アラブ諸民族の覚醒、イラン・アフガニスタンの動向を理解させる。 インドの植民地化とその社会の変貌、東南アジア諸国の植民地化の過程を理解させる。 ヨーロッパ諸国の干渉による清朝の動揺と近代化改革、日本の開国と台頭による東アジア国際秩序の再編を理解させる。 	○	◎	△	◎		小テスト
	3	13章 帝国主義とアジアの民族運動	<ul style="list-style-type: none"> 帝国主義の特質と、帝国主義時代における欧米列強諸国の国家・社会の変化を理解させる。 帝国主義時代の欧米列強による世界各地の分割や植民地化をめぐる競合と、従属させられた地域社会の抵抗と変容を理解させる。 欧米諸国の支配を受けたアジア諸国の改革と民族運動の形成を理解させる。 	○	◎	△	◎		
12	4	第14章 2つの世界大戦	<ul style="list-style-type: none"> 第一次世界大戦とロシア革命が国際秩序に大きな変化をもたらし、20世紀の変動の基点となったことを理解させる。 国際協調を基調としたヴェルサイユ体制下の欧米諸国の動向を理解させる。 中国や東南アジア諸国、インド、トルコや西アジア諸国、アフリカの民族運動の展開を理解させる。 世界恐慌以降の欧米諸国の動向や東アジアの状況から、国際的な緊張が高まる時代を理解させる。 第二次世界大戦に至る過程と戦争規模の拡大、米ソの国際的地位の高まりを理解させる。 	◎	○	△	◎		2学期期末考査
	3	第15章 冷戦と第三世界の独立	<ul style="list-style-type: none"> 第二次世界大戦後、米・ソを中心とした冷戦体制が成立し、東西両陣営に世界が分裂したことを理解させる。 中華人民共和国の成立やアジア諸地域の独立の過程を理解させる。 朝鮮戦争などによる米ソ冷戦の激化から、日本・西欧の経済復興や「雪どけ」の始まりによって、国際政治や経済が多極化に向かったことを理解させる。 戦後の20年間に段階的に独立を達成したアジア・アフリカ諸国が第三勢力として躍進し、発言力を強めたことを理解させる。 米・ソの両大国の動揺と国際的な影響力の減退を理解させる。 ドル＝ショック、オイル＝ショック以降の国際経済の再編、冷戦の終結への流れを理解させる。 	◎	○	△	◎		
12	4	第16章 現在の世界	<ul style="list-style-type: none"> 東欧社会主義圏の消滅とソ連邦の解体、1990年代の情報技術革命とグローバル経済の進展を理解させる。 途上国の民主化の進展と、アジア社会主義国家の変容を理解させる。 世界で多発する地域紛争と同時多発テロ後の戦争、紛争解決や軍縮の試みを理解させる。 科学技術の発達と現代文明の抱える危機、現代思想や文化の特徴について理解させる。 	○	◎	△	◎		
	1~2	15 世界史のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> 共通テスト演習・二次対策記述演習を通して、歴史的思考力、判断力をさらに深める。 	○	△	◎	◎		

*は各学期末考査後に適宜、時間を配分して実施する。

3 自己評価と課題

到達目標を達成できたか		次学期（次年度）に向けての課題
A (80%以上) B (65%以上) C (40%以上) D (40%未満)		
	自己評価	
1学期		
2学期		
3学期		